

教授就任

健康増進医学講座 健康栄養医学

石黒 洋



〈略歴〉

昭和61年3月 名古屋大学医学部 卒業
 昭和61年5月 刈谷総合病院 臨床研修医
 昭和62年4月 刈谷総合病院 内科医師
 平成2年4月 名古屋大学大学院医学系研究科(内科学第二)入学
 平成5年7月 名古屋大学大学院医学系研究科(内科学第二)修了
 平成5年8月 英国マンチェスター大学
 School of Biological Sciences, Research Fellow
 平成7年11月 名古屋大学医学部附属病院 第二内科 医員
 平成10年7月 名古屋大学医学部附属病院 第二内科 助手
 平成11年10月 名古屋大学総合保健体育科学センター 助手
 平成16年4月 名古屋大学総合保健体育科学センター 准教授
 平成22年4月 名古屋大学総合保健体育科学センター
 (大学院医学系研究科 健康栄養医学分野) 教授
 現在に至る

〈業績〉

1. [Ishiguro H](#), Steward MC, Naruse S, Ko SB, Goto H, *et al*. CFTR functions as a bicarbonate channel in pancreatic duct cells. *J Gen Physiol* 133: 315-26, 2009.
2. Futakuchi S, [Ishiguro H](#), Naruse S, Ko SB, Fujiki K, *et al*. High glucose inhibits HCO₃⁻ and fluid secretion in rat pancreatic ducts. *Pflugers Arch* 459: 215-26, 2009.
3. Stewart AK, Yamamoto A, Nakakuki M, Kondo T, [Ishiguro H](#). Functional coupling of apical Cl⁻/HCO₃⁻ exchange with CFTR in stimulated HCO₃⁻ secretion by guinea pig interlobular pancreatic duct. *Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol* 296: G1307-17, 2009.
4. Steward MC, [Ishiguro H](#), Case RM. Mechanisms of bicarbonate secretion in the pancreatic duct. *Annu Rev Physiol* 67: 377-409, 2005.
5. [Ishiguro H](#), Naruse S, Steward MC, Kitagawa M, Ko SB, *et al*. Fluid secretion in interlobular ducts isolated from guinea-pig pancreas. *J Physiol* 511: 407-22, 1998.

この度、平成22年4月1日付けで、近藤孝晴教授の後任として、名古屋大学大学院医学系研究科社会医学専攻健康増進医学講座健康栄養医学分野の教授を拜命いたしました石黒洋でございます。この書面をお借りして、名古屋大学医学部学友会の皆さまに謹んでご挨拶を申し上げます。東山キャンパスの総合保健体育科学センター(保体センター)に所属して学生と職員の健康管理、産業医業務、全学教育科目の健康・スポーツ科学講義に携わるとともに、大学院医学系研究科に協力講座として参加しています。

私は、昭和61年に名古屋大学医学部を卒業し、刈谷総合病院に研修医および内科医師として勤務した後、大学院生として名古屋大学第2内科第5研究室(膵臓

研究室)に帰局しました。早川哲夫先生(現名城病院院長)の指導のもと、膵炎や膵臓癌の入院患者さんの診療、慢性膵炎の臨床研究とともに、小動物の膵臓から単離した腺房を用いて消化酵素が分泌されるメカニズムを研究しました。医学部生の頃から漠然と海外留学したいという気持ちを持ち続けていたところ、縁あって、大学院修了と同時に英国マンチェスター大学のSchool of Biological Sciencesに2年3ヶ月間留学しました。恥ずかしながら明確な研究目標は無く、何かしら新しいことを研究室に持ち帰りたいという気概だけを持って渡英しました。当時の研究グループの名称である"SECRETION"と襟にマジックで書いてあるお古の白衣と、実験に使う緩衝液の組成(recipe)だけを貰って実験を始めました。小動物の膵臓から実体顕微鏡下で小膵管を単離して、重炭酸イオン分泌のメカニズムを解析するというテーマですが、軌道に乗るまでに半年以上かかってしまい、新しく膵臓研究室のチーフになられた成瀬達先生に帰国を少し延期していただきました。帰国後は、附属病院医員そして助手(第2内科)として、平成11年に保体センターに移って研究を続けております。

膵臓の重炭酸イオン分泌の研究を始めて、17年近くたちましたが、今でも健康栄養医学研究室の中心テーマですので、研究者として大変良い運に恵まれたと思っています。また、DIYがさかんな英国らしく手作りで実験セットを組んでゆく研究姿勢を学べたことも、私に合っていたように思います。重炭酸イオンの分泌は、膵液のアルカリ化だけでなく、消化管、気道などの粘膜上皮において管腔内液のpHと粘稠度を保ち粘膜防御機構が正常に働くために必須です。当研究室では、慢性膵炎や嚢胞性線維症との関連を調べていますが、他の様々な疾患の病態に関連しているのではないかと考えています。

これまでは、近藤教授をはじめとする先生方のお陰で自分のやりたいように研究を続けさせていただきました。今後は、大学院生の指導と後進の育成に力をそそ

ぎ、健康栄養医学研究室を発展させるべく努める所存です。また、保体センターの教員としては、新入生に対する保健科学の講義、保健管理室での内科診療、肥満者に対する保健指導、産業医としての職場巡視などの活動を通して、学生と職員の健康増進のために努めてまいります。



最後になりましたが、これまでご指導いただきました先生方、これまで支えてくださいました健康栄養医学研究室および旧第2内科第5研究室のスタッフと大学院生の皆さんに、この場をお借りして心より御礼申し上げます。学友会の皆さまには今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

教授就任インタビュー

— 教授になられた抱負をお聞かせください。

今までは自分で立案した実験を進めていけばよかったのですが、これからは大学院生の指導に重点を置かなければならないと思っています。私自身は脾臓の細胞を使った上皮膜イオン輸送の生理学というかなり基礎的な研究をやっていますが、教室の大学院生には医学部出身の人は少なく、栄養学の大学を卒業してもう少し研究したい

という人が多くなっています。教室では、小腸が食事中の脂肪を感知するメカニズムの研究を始めています。こういった栄養と関連する研究テーマを増やしていきたいと考えています。

— なぜこちらの道に進まれたのですか。

私は、もともと消化器内科医であり基礎医学については素人だったのですが、留学して生理学教室に所属したところ自分にあっていと感じ、基礎研究を続けたいと思うようになりました。健康栄養医学研究室は、ヒトを対象とする消化吸収の生理学の研究の歴史がありましたので、移ることができて運が良かったと思います。

— 最後に、学生へのメッセージをお願いします。

昔に比べると随分早くから専門科目を勉強するようになりましたが、私は必ずしもよいこととは思っていません。やはり大学に入学したら、最初の2～3年間は医学にこだわらずに色々なことを勉強したり経験したりするのが良いと思います。一見医者になるのに役に立たないと思われることや無関係に思える授業、そして読書を楽しんでください。

(インタビュー：前田 翔、奥田 夕真)

第101回 名古屋大学医学部 学友大会ご案内

薫風の頃となりましたが、皆様にはお変わりもなくご活躍のことと存じ、心よりお慶び申し上げます。さて、今年度の学友大会委員長を仰せつかり、只今多くの有能な先生方と協議、準備を進めております。今回も多数の会員のご参加を得て、盛大な会にさせて頂きたいと念じております。どうぞ万障お繰り合わせの上ご参加頂きますようお願い致します。平成22年5月 第101回名古屋大学医学部学友大会 委員長 堀田 知光

とき

平成22年10月23日(土曜日)14時～

ところ

名古屋観光ホテル 3階那古の間
〒460-8608 名古屋市中区錦一丁目19番30号
TEL 052-231-7711

行事

- 1. 総会
- 2. 記念講演
演題：「人は仕事で磨かれる」
演者：丹羽 宇一郎 (伊藤忠商事会長) ※依頼中
- 3. 懇親会

【一筆啓上】

例年どおり、大会誌に「一筆啓上」欄を設けてますので会員相互の紙上交歓と共にこの企画へ、関連病院、支部、クラス会、医局よりご賛同を賜りますようお願い申し上げます。

事務局：第101回名古屋大学医学部学友大会
TEL 052-744-2512 (直通)

